

第1章 がんを取り巻く現状について

- ✓ 近年、低侵襲で日常生活を続けながら治療可能な**放射線治療の需要が増加**
- ✓ 放射線治療の最先端治療である**粒子線治療は都内未導入**

第2章 粒子線治療について

- ✓ 粒子線治療はがん病巣への集中的な照射が可能であり、**身体的な負担が少なく、仕事や学業、日常生活との両立も可能な治療法**
- ✓ 一方、施設の整備・運営に多大なコストを要することなどから、**一般の医療機関等では適切な医療の提供が困難**
- 都民の誰もが必要に応じて質の高い医療を受けられる環境整備を推進するため、**都立病院に粒子線治療施設を整備**

第3章 導入する治療装置について

- ✓ 小児がんの適用は、陽子線治療○ 重粒子線治療×
- ✓ 陽子線治療は重粒子線治療に比べ、症例が多く積み重なりエビデンスに基づいた医療を提供しやすい（有識者意見）
- 難治性がんに積極的に対応するとともに、**小児から高齢者まで誰一人取り残さないがん対策を推進し、最先端がん治療の選択肢を広げられるよう、陽子線治療装置を導入**

第4章 整備地について

- ✓ 粒子線治療施設は、がん診療連携拠点病院等、集学的治療を提供する病院に整備することで、より一層質の高い医療の提供が可能（有識者意見）
- **がん診療連携拠点病院等の都立病院に陽子線治療施設を整備**
- ✓ 都立病院の中では、都道府県がん拠点病院である駒込病院が、最も豊富な診療実績と充実した診療体制
- ✓ 区中央部に位置しており、他のがん診療連携拠点病院等との連携においても優位性
- **駒込病院に陽子線治療装置を導入**

第5章 施設概要について

- ✓ 粒子線治療装置・施設の概要

第6章 整備手法について

- ✓ 分離発注方式、デザイン・ビルド方式、PFI方式について比較検討

第7章 今後の検討課題について

- ✓ 他の医療機関との連携、駒込病院における小児がんの診療体制、人材の確保・育成 など